

創立50周年

関東コイルセンター工業会

創立50周年を迎えた関東コイルセンター(CCC)工業会の藤澤鐵雄会長(藤澤鋼板社長)に、これまでの振り返りと今後の展望について聞いた。

(太田 一郎)

—50周年の節目を迎え、会長としての心境か
え、会長としての心境か
ら。
「まずは半世紀という歴史の重みを受け止め、この間の諸先輩の苦勞や努力、会員相互の信頼と結束力、そしてわれわれとの関わりが深い製鉄メーカーや商社の長年にわたる支援や協力があった現在を迎えられたことに、会を代表して感謝と御礼を申し上げます」

「自分は半世紀という歴史の重みを受け止め、この間の諸先輩の苦勞や努力、会員相互の信頼と結束力、そしてわれわれとの関わりが深い製鉄メーカーや商社の長年にわたる支援や協力があった現在を迎えられたことに、会を代表して感謝と御礼を申し上げます」

「自分は半世紀という歴史の重みを受け止め、この間の諸先輩の苦勞や努力、会員相互の信頼と結束力、そしてわれわれとの関わりが深い製鉄メーカーや商社の長年にわたる支援や協力があった現在を迎えられたことに、会を代表して感謝と御礼を申し上げます」

が、10周年を迎えたときから8代・鈴木貴士さんに60社に増えている。バババトンが移って以降、2代目期の90年には66社を数えたが、これをピークに会員数は漸減をたどり、10年前の40周年のときが44社。そして現在は37社で構成している

信頼ベースに切磋琢磨

「信頼は、初代の関昇さんから数えて私が11代目。『会員企業に役立つ事業を展開する』との運営方針を、最初の30年が創業者世代による運営で、1997年に7代・新井吾三郎さん



藤澤 鐵雄会長(藤澤鋼板社長)に聞く

「10年ほど前にスタートし、今や全国的な広がりを感じている」

健全な業界形成へ「適正加工賃確保」

「魅力ある業界とは、言い換えれば健全な競争原理と自浄能力を備えた業界であり『努力すればきちんと儲かる業界』だと私は思う。『儲ける』ために、私はCCのメンの種である『加工賃の適正化(加工賃是正)』を声高に主張したい」

▼4、5面に関連記事